



創業者 江崎 利一

社会のために—創業者が育んだ奉仕の精神

創業者 江崎 利一は1882(明治15)年、佐賀県佐賀市蓮池町に生まれました。

高等小学校を4年で卒業した満14歳の江崎 利一は、家業の薬種業を手伝うかたわら、中学の講義録を借り独学を続けました。父からは「商売に精を出して産をつくり、その金を分相応に人様のために使わねばならない」と社会奉仕の精神を教えられ、さらに近所に住んでいた篤学の士、榎村 佐代吉先生宅を訪ね、商売のあり方をはじめ多くを学んでいます。「商売は、自分のためにあるが、世の中のためにもある。売る人は物を売って利益を得るが、買う人もまたそれだけの値打ちの物を買って得をする」という榎村先生の教えは、「事業即奉仕」という言葉となり江崎 利一の生涯を支えました。

グリコーゲンとの出会い

1919(大正8)年、行商に出かけた江崎 利一は、筑後川下流の早津江川の土手で牡蠣を煮る漁師に出会います。エネルギー源として重要なグリコーゲンが日本の貝類、特に牡蠣に多く含まれているという新聞記事を思い出した江崎 利一は煮汁を分けてもらい、九州帝国大学付属病院に分析を依頼します。その結果、グリコーゲンのほかカルシウムや銅分等も含まれているのがわかったのです。

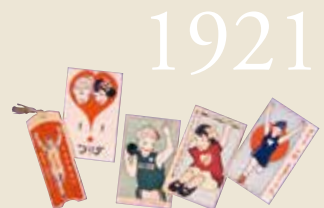
「おいしさと健康」の追求

受け継がれる創業の精神

1919(大正8)年、創業者 江崎 利一は牡蠣の煮汁に含まれているグリコーゲンに注目して、「栄養菓子グリコ」を創製し、1922(大正11)年に発売しました。栄養菓子グリコを普及させて「食品による国民の体位向上」を目指したのです。以来、その想いは、さまざまな商品・サービスに具現化され、今日に至っています。創業の精神は、現在の企業理念「おいしさと健康」へと表現を変えていますが、Glicoグループは一貫して事業を通じて社会に貢献することを追求し続けてきました。



発売当初の
栄養菓子グリコ
1922(大正11)年



栄養菓子グリコに封入されていた絵カード
1921~1926(大正10~15)年

翌年、8歳になった長男の誠一がチフスにかかり、衰弱のひどい状態が続き医者もさじを投げたと言われています。その時、江崎 利一は医者への許可を得て、研究中のグリコーゲンのエキスを少しずつ誠一に与えました。すると、誠一はなんと体力を取り戻したのです。

「息子を救ってくれたグリコーゲンを、広く世に役立てたい。薬にしようか」と考えた時、九州大学の先生から「病気になった者を治すよりは病気にかからぬ体をつくることだ」とアドバイスを頂きます。「グリコーゲンを一番必要とするのは育ち盛りの子どもである。それならば子どもが喜ぶ菓子に入れたらどうか」。江崎 利一は子どもに人気だったキャラメルに着目しました。

栄養菓子グリコの創製

菓子についてはまったくの素人でしたが、江崎 利一は新しい菓子の名称、形、トレードマーク、キャッチフレーズを考えました。

商品名はグリコーゲンを含んでいるので「グリコ」。語呂もよく、文字数も少なく、覚えやすく新商品らしい響きを感じます。形はハート型にこだわりました。ハート型は人の心に通じると考えたのです。トレードマークはゴールインマークにしました。江崎 利一は家の近所の神社でかけっこをしていた子どもたちが両手をあげてゴールする姿を目にし、「ゴールインの姿は健康の象徴ではないか」と考えたからです。

江崎 利一はキャッチフレーズの効果も重視していました。ゴールインマークになぞらえて「一粒〇〇メートル」というキャッチフレーズを思いつきました。「100メートルでは短すぎる。500メートルでは長すぎる。300メートルがちょうどよい」と考え、グリコー粒を、人が300メートル走るのに必要なカロリーに調整し、「一粒300メートル」をキャッチフレーズとしました。パッケージも人目を引く赤色とし、他社との差別化を図りました。

おもちゃ封入——「心の健康」にも思いをはせて

「子どもにとって食べることと遊ぶことは二大天職である。栄養菓子グリコは、発育盛りの子どもの栄養補給源になる。その上、おもちゃである豆玩具をひとつの箱に入れば、子どもの知識と情操を向上させ、心の健やかな発育に役立つ」。江崎 利一は子どもの「カラダの健康」だけでなく「ココロの健康」にまで思いをはせ、栄養菓子グリコに発売当初は小さな絵カードを、やがて小さなおもちゃを入れました。おもちゃがついた栄養菓子グリコは、こうして誕生したのです。

おいしさにこめる創意工夫

栄養菓子グリコに始まり、さまざまな商品を開発しています。一粒のアーモンドが丸ごと入った「アーモンドチョコレート」は、発

ルアイス」です。現在はさらに糖質オフを実現した「SUNAO（スナオ）」というブランドに進化しています。

おいしくて体に良いものを食べたいというお客様の想いを実現するために、Glicoは妥協せず、進化を続けています。

公益財団法人母子健康協会への支援

心豊かな暮らしのための活動の一環として、公益財団法人母子健康協会への支援を行っています。母子健康協会は1934年に創業者 江崎 利一が私財を投じて設立した財団法人で、「親と子の心身の健康増進に貢献すること」を目的として、子どもの健康の増進や疾病の予防とその治療に役立つ小児医学研究助成を中心に、機関誌の発行やシンポジウムの開催など多彩な活動を行っています。



年に一度、子どもたちの健康に関する情報を満載した機関誌「ふたば」を発行しています。

1933



ビスコ
1933(昭和8)年

1958



アーモンドチョコレート 1958(昭和33)年

1966



ポッキーチョコレート 1966(昭和41)年

2003



カロリー
コントロールアイス
2003(平成15)年

売当時にはアーモンドをピンセットで一粒ずつつまんで製造していました。

また、チョコレートスナック「ポッキーチョコレート」は、当時人気だった「ブリッツ」に、持つところができるようにチョコレートをかけるというアイデアから生まれました。こうした商品のアイデアを具現化し、より多くのお客様にお届けするため、多くの製造設備を独自に開発してきました。

このようなアイデアと製造技術やノウハウの積み重ねが、独創的な商品を生む土壌となっています。Glicoの商品によって生まれる喜びをお客様に感じていただくために、創意工夫を惜しまないこそが私たちの喜びでもあるのです。

健康を追究するあくなき姿勢

Glicoの第二の栄養菓子として発売された「ビスコ」は、胃腸の働きを助けると研究発表された酵母菌を、クリームに練り込むことで生まれたクリームサンドビスケットです。

現在の商品は、時代のニーズに合わせて、酵母菌の代わりに整腸作用のある乳酸菌をクリームに練り込んでいます。

また、「アイスは大好きだけど、カロリーが気になるから食べない」といったお客様の声に耳を傾け、医科大学の皆さんと一緒に研究・開発して生まれたのが、1個80キロカロリーの「カロリーコントロー

Glicoの商品を世界中へ

Glicoの活動は日本国内にとどまりません。タイ、フランス、中国、韓国、インドネシア、アメリカに製造拠点を設け、商品を現地の皆さまにお届けしています。昨今は、海外の製造拠点から周辺諸国への輸出にも積極的に取り組んでいます。

それは創業者をはじめ従業員が、事業を通じて社会に貢献したいという想いで商品の開発や製造に取り組んできたからに他なりません。

私たちは、これからも創業の精神を受け継ぎ、世界において企業理念「おいしさと健康」を実現することを目指し、企業活動を続けてまいります。

社会価値創造による Glicoブランドの成長

1919 (大正8年) ● 創業者 江崎 利一が、牡蠣の煮汁に含まれるグリコーゲンに出会う

1921 (大正10年) ● 栄養菓子グリコを創製し、試験発売



1922 (大正11年) ● 大阪三越百貨店で栄養菓子グリコを発売後に、この2月11日を江崎グリコの創立記念日とする

1925 (大正14年) ● 大阪市北区豊崎に豊崎工場新設

1927 (昭和2年) ● 豆玩具を創案



1931 (昭和6年) ● 映画付きグリコ自動販売機を東京の百貨店等に設置
現在の本社所在地、大阪市西淀川区歌島に大阪工場新設



1932 (昭和7年) ● 中国に大連工場新設
大陸や南方へ展開

1933 (昭和8年) ● ビスコ 発売



1934 (昭和9年) ● 財団法人 母子健康協会を設立

1935 (昭和10年) ● 大阪ミナミの戎橋にネオン塔を設置



1937 (昭和12年) ● 東京工場新設

1945 (昭和20年) ● 大阪工場と東京工場が空襲により全焼
終戦で国内外の工場・資産を失う

1951 (昭和26年) ● 大阪工場、東京工場再建

1953 (昭和28年) ● 九州工場新設

1955 (昭和30年) ● アーモンドグリコ 発売



1956 (昭和31年) ● 江崎グリコ栄食を設立
佐賀県にグリコ協同乳業を設立

1957 (昭和32年) ● 小麦でんぷんの製造開始

1958 (昭和33年) ● アーモンドチョコレート 発売



1960 (昭和35年) ● ワンタッチカレー 発売



1962 (昭和37年) ● プリッツ(ソーダスティック) 発売

1963 (昭和38年) ● グリココーン(のちのジャイアントコーン) 発売



1966 (昭和41年) ● グリコ協同乳業7社が合併
ポッキーチョコレート 発売



1969 (昭和44年) ● ヨーグルト健康 発売

1970 (昭和45年) ● タイグリコを設立

1972 (昭和47年) ● 江崎記念館竣工
食品用着色料モナスカラー発売
プッチンプリン 発売



1973 (昭和48年) ● 高原牛乳1000ml 発売

1978 (昭和53年) ● パナップ 発売



1979 (昭和54年) ● カフェオーレ、カフェゼリー 発売



1982
(昭和57年)

- 江崎グリコ栄食とグリコハムが合併し、グリコ栄養食品を設立
- ジェネラルビスケット グリコフランス (GBGF) を設立



1985
(昭和60年)

- セブティーンアイス自動販売機展開を開始

1986
(昭和61年)

- 生物化学研究所を新設
- レトルトビーフカレーLEE 発売
- アイスの実 発売



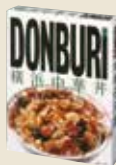
1988
(昭和63年)

- グリコピア神戸オープン



1989
(平成元年)

- レトルト丼・DONBURI 発売



1992
(平成4年)

- 企業理念「おいしさと健康」、Glicoスピリット「創る・楽しむ・わくわくさせる」、新ロゴマークを発表

おいしさと健康



1995
(平成7年)

- 熟カレー 発売
- 上海グリコを設立



1996
(平成8年)

- インターネットに初の会社ホームページ「グリコ夢のレストラン」開設



1997
(平成9年)

- 朝食りんごヨーグルト 発売



1999
(平成11年)

- 11月11日を「ポッキー&プリッツの日」に制定

2000
(平成12年)

- グリコ協同乳業がグリコ乳業に社名変更 江崎グリコの100%子会社に
- 江崎グリコ本社、全製造会社が、ISO14001 (環境マネジメントシステム) の認証取得

2001
(平成13年)

- アイクレオをGlicoグループ傘下に

2002
(平成14年)

- オフィスグリコ事業を本格展開
- Glicoグループ行動規範を制定



2003
(平成15年)

- 米国江崎グリコ設立
- 特定保健用食品ポスカム 発売
- カロリーコントロールアイス 発売



2004
(平成16年)

- カレー-ZEPPIN<絶品> 発売

2005
(平成17年)

- メンタルバランスチョコレート GABA(ギャバ) 発売



2008
(平成20年)

- チーズ 発売



2009
(平成21年)

- アイクレオのバランスミルク、アイクレオのフォローアップミルク 発売



2010
(平成22年)

- グリコワゴンが全国縦断開始

2012
(平成24年)

- グリコ栄養食品が会社分割
- グリコピア・イーストオープン
- ベトナム、インドネシアでポッキー本格発売



2013
(平成25年)

- 韓国でポッキー発売
- インドネシアにグリコウイングス設立



2014
(平成26年)

- グリコハムの全株式を譲渡
- マレーシアでポッキー発売
- グリコインドネシアを設立
- 6代目グリコサインが点灯 (LED照明に変更)

2015
(平成27年)

- 17の製造会社とマーケティング部門、SCM部門でFSSC22000の認証取得
- グリコフローズン(タイランド)設立
- 江崎グリコがグリコ乳業を吸収合併

2016
(平成28年)

- タイでアイスの販売開始
- グリコ千葉アイスクリーム拡張
- グリコチャンネルクリエイト設立
- インドネシアでアイスの製造販売開始



2017
(平成29年)

- グリコマレーシア設立
- グリコアジアパシフィック設立
- グリコカナダコーポレーション子会社化
- グリコピアCHIBAオープン



2018
(平成30年)

- 米国のチョーベンチャーズを買収
- グリコフィリピン設立
- グリコピア神戸リニューアルオープン

2019
(令和元年)

- アイクレオを吸収分割(合併)